

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記3

国立市立国立第七小学校

平成27年5月1日 NO.14(214)・・・前号はNO.11ではなく13でした!失礼しました。

花ちゃん 「モンタ博士のいうように、^{はかせ}私は、^{わたし}国立や^{くにたち}谷保のあちこちをてくてくすることになりました。どんなものがあるか^{たの}しみになってきました。」

モンタ博士 「^{や ほ てんじん}谷保天神もあるだろう。^{まえ}前にもお伝えしたけど、^{や ほ てんまんぐう もり}谷保天満宮の森は^{とうきょうと}東京都の^{たからもの}宝物にもなっているんだよ。くわしくいうと、『^{と てんねんきねんぶつ}都の天然記念物』ということなのさ。」

オー君 「あ!そういえば、^{とりい}鳥居のところに何か^{なに た ふた}立て札があったよ。」

モンタ博士 「みんなにはむずかしいけど、そのまま^{つた}お伝えするね。」

東京都指定天然記念物

谷保天満宮社叢

所在地 国立市谷保五二〇八
指定 大正一三年二月

谷保天満宮は、国立市の南、多摩川を臨む立川段丘の縁にあります。その由来について、「武蔵国多磨郡谷保村天満宮略縁記(起)」は、菅原道真の第三子三郎がここに流され、三郎殿を建立したこと、また、はじめ本宿村の南天神島というところに創建され、津戸三郎為守が霊夢をみて現在地に遷したことなどが記されています。

社叢とは、いわゆる鎮守の森のことです。参拝者はその鎮守の森のおごそかな雰囲気の中、参道を進みます。

甲州街道は一七世紀のある時期まで、谷保のあたりで立川段丘の下を通っていましたので、天満宮の本殿・拝殿は街道に面し、南向きに建てられています。

甲州街道が段丘上を通るようになると、人の流れも変わり、参道は駅や甲州街道からこの鎮守の森を抜け、本殿に向かうようになりました。

かつては谷保天満宮を取り囲んで、杉を主体とする鬱蒼とした森が広がっていました。現在は、ケヤキ、ムクノキ、エノキなどが優占する林となっています。また河岸段丘の豊富な湧水が流れ、神社に風格を添えています。

平成二四年三月 建設 東京都教育委員会

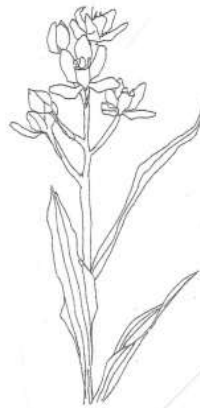
モンタ博士 「それから、^{いま}今あちこちの^{やま}山や^{のほら}野原で^さ咲いてい^{はな}そうな花の^{そくへん}続編をかいたから^{さん}参考にして下さい。」



ニリンソウ



イチリンソウ



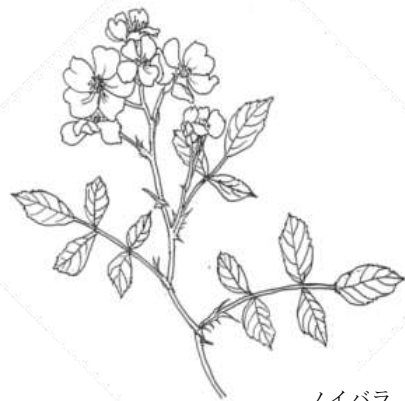
キンラン



オオムラサキツツジ



ハナミズキ



ノイバラ



ニガナ



ヤマブキソウ



ドクダミ



アカツメクサ



ハンカチーフの木



シロツメクサ



オカタツナミソウ